



山岳科学

特別教育プログラム

日本初、
山岳科学に特化した
大学院教育プログラム

始動！

Special Educational Program on
Mountain Studies

山梨大学大学院 修士課程
生命環境学専攻



山岳地域は、森林資源や水資源、観光資源など
多くの恵みを私たちに与えてくれる一方で、過疎化や林業衰退により
森林利用や中山間地問題などの多くの課題がでてきました。
更に近年、気候変動や自然災害、生物多様性の損失など
山岳地域は多くの環境問題を抱えており、
山岳環境と人間生活の持続的な関係を考えていく必要があります。



山岳科学 特別教育プログラムとは

山岳科学特別教育プログラムは、
山梨大学・筑波大学・信州大学・静岡
大学の4大学が連携する日本初
の山岳科学を学ぶことに特化した
教育プログラム(修士課程)です。
連携大学の多様な講師陣による講
義や、フィールドステーション等で
の実習・研究活動を通じて、山岳域
の諸問題を解決できる人材の育成
を目指します。

理学分野

生態学、系統分類学、
遺伝学、気象学、地形学、
地質学、水文学、地理学

工学分野

河川工学、環境工学、
森林工学、土木工学、砂防工学、
社会工学、リスク工学

山岳 科学

農学分野

自然科学：造林学、森林立地学、治山学、
森林保護学、林産学
社会科学：林業経営学、環境経済学、
森林風致学、農村社会学



山岳域の諸課題に携わる
国家/地方公務員、一般企業、
国立研究開発法人/地方研究機関等研究員、
団体等職員、NPO/NGOなど



山を学ぶためのカリキュラム

山岳環境の保全と管理に不可欠な幅広い教養と高度な専門性を共に身につけられるよう、専門基礎科目、生物圏科目、地球圏科目、人間圏科目からなる学際的なカリキュラムを編成しています。



1年次

[中間発表] ※1

2年次

[最終発表] ※1

■山岳科学概論 A・B

■山岳フィールド実習 A

■山岳環境インターンシップI・II

■専門科目群(生物圏, 地球圏, 人間圏)※2



■山岳フィールド実習 B

■専門科目群(生物圏, 地球圏, 人間圏)※2

■生命環境学演習 A・B

■生命環境学研究 A・B



■地域環境マネジメント演習 A・B

■地域環境マネジメント研究 A・B

■大学院共通科目

■専攻共通科目



■大学院共通科目

※1 修士論文の研究内容は連携大学との研究集会で発表します。

※2 専門科目では連携大学の科目も履修することができます。

専門科目群

<生物圏科目>

- ・山地陸水環境学特論
- ・山地生物多様性特論
- ・水圏植物学特論
- ・野外水圏植物学実習
- ・植生学(筑波大学)
- ・山岳高原生態学実習(筑波大学)

- ・造林学特論(静岡大学)
- ・森林生態学演習(静岡大学)
- ・菌類共生科学特論(筑波大学)
- ・野生動物フィールド演習(信州大学) など

<地球圏科目>

- ・大気環境動態解析特論
- ・山岳大気化学特論
- ・山岳地形学(筑波大学)
- ・流域圏水循環学(筑波大学)

- ・砂防工学特論(静岡大学)
- ・Environmental Remote Sensing(静岡大学)
- ・山地保全学特論(筑波大学) など

<人間圏科目>

- ・環境資源経済学特論
- ・防災教育特論
- ・山岳観光学(筑波大学)
- ・地域資源保全学特論(筑波大学)
- ・地域環境計画学特論(筑波大学)
- ・サステナブル建築設計学(筑波大学)
- など



教員紹介

・宮崎 淳一 教授

分子系統解析による生物進化、希少生物の保護と生物多様性の保全の研究

・尾藤 章雄 教授

山間集落の地域変容と生活環境の維持・防災システムに関する研究

・福地 龍郎 教授

活断層の年代測定と活動性評価に関する研究

・小山 勝弘 教授

環境生理学、環境条件（暑熱・寒冷、高地、低酸素）がもたらす生体応答についての研究

・渡邊 幹彦 教授

生物多様性の保全とレジリエンス社会への経済学的アプローチ

・岩田 智也 准教授

水域生態系の食物網と生元素循環

・小林 拓 准教授

光を利用した大気・海洋環境の測定機器開発および観測

・松本 潔 准教授

大気中微量成分の動態解明と地球環境への影響の理解

・野田 悟子 准教授

環境微生物の進化・生態学的研究

・芹澤 如比古 准教授

山岳湖沼における水生植物の変動予測—環境動態解析と潜水生態調査および光合成測定—

・矢野 美紀 准教授

作物に好適な生態系と物質循環



入試情報

山岳科学特別教育プログラムへの入学を希望される方は、山梨大学大学院医工農学総合教育部・生命環境学専攻・地域環境マネジメントコースの入試を受験して下さい。例年、前期募集は7月初旬（出願6月初旬）、後期募集は12月初旬（出願11月初旬）です。入試の詳細については必ず募集要項で確認して下さい。

募集人員 ----- 10人（地域環境マネジメントコース）

その他 ----- 出願にあたっては、あらかじめ志望する指導教員と研究内容等について相談し、入学後の研究指導について了解を得ておいてください。入学時期（4月・10月）については募集要項を確認し、指導教員と相談の上決定してください。

資料請求先 ----- 山梨大学 教学支援部 入試課 〒400-8510 甲府市武田4-4-37

募集要項は <http://www.yamanashi.ac.jp/admission/45> よりダウンロードできます。

TEL:055-220-8046 FAX:055-220-8795

E-mail: nyushi@yamanashi.ac.jp

受付時間：月曜日～金曜日（8:30～17:00）

■詳細情報・大学院説明会

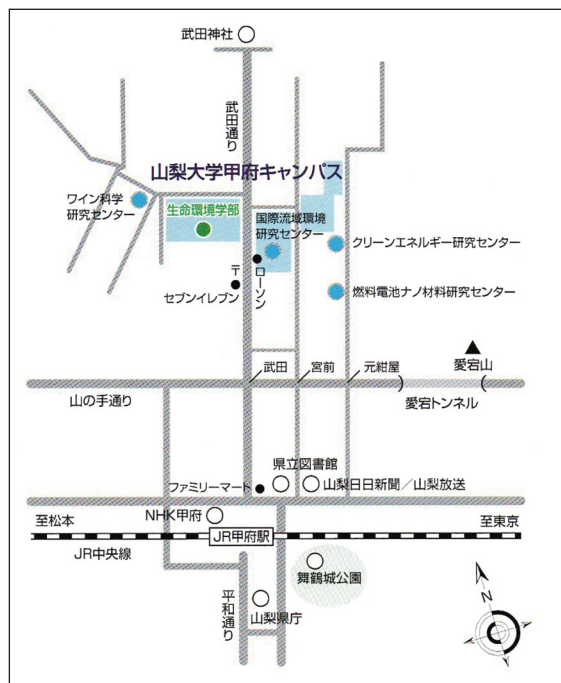
下記の山梨大学大学院 生命環境学専攻 山岳科学特別教育プログラムのHPを参照してください。

 <http://www.ccn.yamanashi.ac.jp/~sangaku/HP/index.html>



交通アクセス

新宿から甲府まで電車で最速83分。意外と早いです!! 静岡駅から131分。富士駅から104分。岡谷駅から55分。



電車・バス

○新宿→甲府駅 都心からだとも最速83分。特急なら乗り換えなし。

- 🚆 JR中央線 特急「あずさ」又は「かいじ」で最速83分
- 🚌 新宿駅南口「バスタ新宿」より最速119分

○名古屋→甲府駅 名古屋からでも、特急に乗ればおよそ3時間。

- 🚆 ① JR中央線（塩尻駅経由）／塩尻で特急「しなの」から特急「あずさ」に乗り換え、最短181分
- ② 東海道新幹線・JR身延線（静岡駅経由）／静岡で新幹線「ひかり」から特急「ふじかわ」に乗り換え、最短195分
- 🚌 JR名古屋駅前バスセンターより約240分

○甲府駅→甲府キャンパス 甲府駅から、信玄公ゆかりの武田神社を目指して歩くこと15分。

- 🚶 甲府駅北口2番バス乗り場より「武田神社」または「積翠寺」行き約5分、「山梨大学」下車
- 🚶 甲府駅北口より武田通りを北上、徒歩約15分

車

○東京→甲府キャンパス

首都高新宿線から高井戸IC経由で中央自動車道：高井戸IC～甲府昭和IC（高井戸＝甲府昭和間約1時間20分、113.2km）で下りて、一般道を北東の方角へ。国道20号線またはアルプス通り経由で約20分

○名古屋→甲府キャンパス

東名高速：名古屋IC～小牧JCT～中央自動車道：甲府昭和IC（名古屋＝甲府昭和間約3時間、245.5km）で下りて、一般道を北東の方角へ。国道20号線またはアルプス通り経由で約20分

山梨大学

生命環境学域

支援課教務グループ

〒400-8510 甲府市武田 4-4-37

TEL. 055-220-8807